

④2 広島駅自由通路等整備事業

受賞機関 広島市 道路交通局 道路部 街路課

キーワード 駅周辺の交通環境改善、施工の効率化

全建賞審査委員会の評価ポイント

広島駅周辺地区の歩行者の回遊性向上のため、広島駅自由通路や新幹線口ペDESTリアンデッキ、新幹線口広場の交通混雑緩和のための交通環境再整備を行った事業。

自由通路とペDESTリアンデッキを一体で整備することにより、駅周辺地区のアクセス性が向上した点や、施工にあたって特殊な多軸台車を用いて一晩で架設を行ったことなど、周辺交通への影響を最小限に抑えた点が評価された。

1. はじめに

広島駅は、年間5,400万人の乗降客を有する中四国地方最大の拠点駅であり、路面電車や市内・郊外・都市間バスや空港と接続するリムジンバスが乗り入れる広域交通拠点である。

本市では、この広島駅周辺地区と従前からの中心市街地である紙屋町・八丁堀地区を東西の核とした「楕円形の都心づくり」を推進しており、東の核である広島駅周辺地区を広島の玄関にふさわしい「まち」に再生するため、再開発や交通ネットワークの充実に取り組んでいる。

2. 事業の概要

広島駅の南北エリアは鉄道で分断され、その移動は、昭和49年に整備された非常に狭い地下自由通路のみで経路もわかりにくいといった課題があった。このため、南口と北口（新幹線口）の間に新たな人の流れを創出し、駅周辺全体の回遊性の向上を図ることを目的に、広島駅自由通路及び新幹線口ペDESTリアンデッキの快適な歩行環境の整備を行った。

また、新幹線口広場は、従前、バスとマイカーが同一エリアで混在し、バスの定時性に支障が生じていたことから、交通機能の適正な配置を図る広場の再整備を行った。広島駅自由通路の工事は、駅機能を確保しながら進め



自由通路・ペDESTリアンデッキ・広場外観

る必要があったため、駅営業時間外の限られた時間帯で行い、事前に大きなユニット化した鉄骨部材を吊荷重750t、作業半径100mの超大型クレーンで揚重するなど効率の良い工法を採用した。また、ペDESTリアンデッキの工事は、1日約3万台の交通量がある市道横断部を特殊な多軸台車を用いて、一晩で一括架設を行った。

これらの施設整備は、UR都市機構が施行した駅北口の二葉の里土地区画整理事業の関連公共事業として同機構の立替施行制度を用いて行い、段階的な供用を図り、平成29年10月には全ての施設が全面供用した。

3. 事業の成果

広島駅自由通路及びペDESTリアンデッキの整備により、快適な歩行者空間が創出され、駅の南北エリアのアクセスが飛躍的に向上した。

自由通路は、天井高を大きくとり、自然採光の確保や自然換気による排熱、排煙を可能とした環境面でも優れた機能を有し、また、新たに整備された橋上駅舎や店舗が接続するなど、通路としての機能だけでなく、多くの市民や来訪者が広島ならではの「おもてなし」を感じる空間となった。

新幹線口ペDESTリアンデッキにより、駅南側エリアとの連携が一層強化された北側エリアでは、商業・業務施設の立地が進んでおり、駅周辺地区のさらなる活性化が図られている。



広島駅自由通路

4. おわりに

駅周辺地区の基盤整備を契機に、地域と行政が一体となったエリアマネジメント活動が具体化しており、今後も広島駅周辺地区の「活力とにぎわい」が一層高まるよう取り組んでいきたい。

賛助会員 (株)長大